




保護者の皆様へ

100冊

友だち できるかな?

図書館司書が選んだ (乳幼児向け)  
子どもに読んでほしい本100選  **千葉県教育委員会**

～「子どもと本をつなぐ」・「子どもの本でつながる」読書活動～
 読書習慣を身に付けるためには、子どもが本の楽しさや魅力を感じる機会が必要です。本に触れるきっかけがあり、手を伸ばすと好きな本や調べたい本がある。「子どもと本をつなぐ」取組や読書環境が本好きの子どもを育てます。また、社会には、読書の大切さを知り、子どもの健やかな成長を願う人が多くいます。その人々がもっている知識・情報・技能・思い等は多様です。そうした大人同士や大人と子どもが読書活動でつながる、すなわち、「子どもの本でつながる」ことで生まれる効果は計り知れません。
 ここに紹介する本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。家庭で過ごすひととき、お子さんと一緒に本を読んでみませんか？
 乳幼児期の読み聞かせはお子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。

『ラチとらいおん』
 いぬも暗い部屋も、友だちさえいなくても、世界一弱虫な男の子のラチの物語に、小さな赤いらいおんがやってくる。体操や訓練で強くなり、ラチはついにいじめっこをやっつける。シンプルな絵と共感できる内容で親しみやすい。
 マレーク・ペロニカ 文・絵 福音館書店

『おちやのじかんにきたとら』
 ソフィーとお母さんがお茶の時間にしようとした時、お腹をすかせたとらがやってきた。とらはソフィーが差し出す食べ物や飲み物をたべ、水道の水まで飲みほしてしまう。奇想天外なストーリーと鮮やかな色使いが印象的な絵本。
 ジョディ・スカー 作 晴海耕平 訳 福音館書店

『かいじゅうたちのいるところ』
 狼の服を着て騒ぎ、お母さんに寝室に放り込まれたマックス。寝室に木が生え波が打ち寄せ、船に乗り一年と一日航海すると、そこは「かいじゅうたちのいるところ」。王様になり、かいじゅうたちと切り遊んだマックスは、やがて家が恋しくなり帰ってくる。
 モーリス・センダック 作 じんぐうてるお 訳 福音館書店

『めつきらもつきらどおんどん』
 神社まで行ったけれど遊ぶ友だちが誰もいない。大声でめっちゃくちゃな歌を歌うと、へんてこりんなお化けがいる不思議な世界へ。ももんびやっこやっしかもっかか、おたからまんちんとかんたの大冒険。ダイナミックな挿絵も魅力的。
 長谷川琪子 作 ぶりやなな 画 福音館書店

『ピーターラビットのおはなし』
 ピーターは、マフレガーさんの畑で野菜を食べているところを見つつかってしまった。靴や服をなくしびしょぬれになりながらも、ピーターはなんとか家にたどり着く。淡い色彩の優しいタッチの絵が魅力的な絵本。
 ビアトリクス・ポター 作・絵 いまよしもと 訳 福音館書店

『すてきな三にんぐみ』
 黒マントに黒い帽子がトレードマークの泥棒三人組。誘拐した女の子に、お宝の使い道を聞かれ、思いついたことは、前半の泥棒の怖い印象とは違っていて、後半は心温まるすてきなお話。
 トミー・アングラ 作 いまよしもと 訳 福音館書店

『わゴムはどのくらい のびるかしら?』
 ある日、ぼうやは輪ゴムがどれくらい伸びるか試してみることにした。部屋から外へ、バスで、汽車で、飛行機で、輪ゴムはどんどん、どんどん、どんどん伸びて…。子どもの想像力がふくらむ絵本。
 マイク・サーラー 文 ジェリー・ジョイナー 絵 きしだえりこ 訳 福成社

『よかったねネッドくん』
 田舎のパーティーに招かれたネッドくん。友達に飛行機を借りたものの途中で爆発。運よくパラシュートで助かるが穴があいていて…。「よかった」はカラー、「でもたいいん」は白黒のページで、ネッドくんに起こる出来事を交互に描き、幅広い年齢の子が楽しめる。
 レミー・チャーリップ 作 やぎたよこ 訳 福成社

昔話 

『おおきなかぶ』
 おじいさんの植えたかぶは、とてつもなく大きくてとてつもなく一人では抜けない。おばあさんやまご、ねこやねずみも呼んで、力を合わせて「うんとこしょどっこいしょ」。やっとなげたときの達成感とリズム感のある言葉の響きが楽しめるロシアの昔話。
 A.トルストイ 再話 内田利沙子 訳 佐藤忠良 絵 福音館書店

『てぶくろ ウクライナ民話』
 冬の森、おじいさんが雪の上に落とした手袋にねずみがもぐりこむ。かえるやうさぎ、次々に大きな森の動物たちが入っていき、ぎゅぎゅぎゅづめの手袋の家に「わしも入れてくれ」と、くままでやって来た。動物たちの会話も楽しいウクライナの民話絵本。
 エウゲーニー・M-ラチョフ 絵 うちらださこ 訳 福音館書店

『いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう』
 小さな機関車ちゅうちゅうは、貨車や客車に荷物やお客さんを乗せて、大きな町まで走る。ある日、ちゅうちゅうは自分だけならどんなに速く走れるだろうと考える。機関士たちの隙を見てひとり走り出す…。
 パーヅニア・リー・パートン 文・絵 むらおがはなこ 訳 福音館書店

『おだんごばん』
 おばあさんが、粉箱をごしごしひつかいておだんごばんを焼いた。窓のところで冷やされたばんは、いすからゆかに、ゆかからおもてのとおりへ逃げだした。食べられないよう逃げて逃げてとうとう…。
 ロシアの昔話。
 瀬田由二 訳 脇田和 画 福音館書店

『三びきのやぎのらがらどん アスピルンセンとモーの北欧民話』
 三びきのやぎのらがらどんが、山の草を食べて太ろうと山を登る。途中の谷川に住む怪物のトロルが、「ささまをひとのみにしてやるぞ」とどなるが、小さいやぎと二番目のやぎが機転を利かせて逃れたあと、大きいやぎがトロルを谷川へ突き落とす。
 マーシャ・ブラウン 絵 せたいじ 訳 福音館書店

『おおかみと七びきのこやぎ』
 お母さんやぎの留守におおかみは七びきのこやぎをだまし、柱時計の箱に隠れたこやぎを残して丸飲み。お母さんやぎは野原で寝ているおおかみを見つけ、おなかをはさみで切ると…。落ち着いた色の絵が魅力的。
 グラム(著) フォトリクス・ホフマン 絵 せたいじ 訳 福音館書店

『だいくとおにろく』
 川に橋を架けることを頼まれた大工。困っているところに出てきたのは川に住む鬼。橋を架けるかわりに目玉をよこせと大工に迫る。大工と鬼のやりとりが何とも楽しい。迫力ある絵が魅力的な昔話絵本。
 松屋直 再話 赤羽末吉 画 福音館書店

0~2歳

『いない いない ばあ』
 ねこ、くま、きつねが次々に出てきて「いないいない」と言った後、ページをめくると「ばあ」の顔をする。その繰り返しで心地よく、赤ちゃんの笑顔を誘う。最後に「いない いない ばあ」をするのは誰かな？
 1967年発行のロングセラー。
 松谷みよ子 文 瀧川康男 絵 童心社

『ととけこうよがあげた』
 「ととけこうよがあげた…」やさしい歌で、寝ている動物たちを起こして歩くのはニワトリさん。最後はみんないっしょに「おはよう」。赤ちゃんの自覚の時に歌ってあげたい、わらべ歌絵本。
 こばやしめいこ 案 ましませつこ 絵 こぐま社

『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』
 「めんめんすーすー」「うまはとしし」「にーざりぱちり」等、手・顔・体を使って親子で楽しむ21編のあそびうたを、イラストと遊び方の解説付きで分かりやすく紹介。親子のスキンシップにおすすめの一冊。
 小林衛巳子 編 大島妙子 絵 のら書店

『じゃあじゃあびりびり』
 自動車が「ぶーぶーぶーぶー」、水が「じゃあじゃあ」、紙が「びりびり」、擬音語のリズミカルなくり返しで心地よく、赤ちゃんの興味を引く。シンプルではっきりとした絵で、首が座る頃から楽しめる。小型で丈夫な厚紙絵本。
 まついのりこ 作・絵 福成社

『かお かお どんなかお』
 たのしい顔、泣いた顔、眠った顔、たかましい顔、すました顔…。さまざまな顔の表情を切り絵で表現。赤ちゃんはもちろん、幼児も絵を見ながらいろいろな顔をして楽しめる絵本。
 柳原良平 作・絵 こぐま社

『ころ ころ ころ』
 いろいろな色だまがかいだんみちやさかみちを「ころころ」と上ったり、下ったり。ページごとに変わる背景と色だまを追っていくと、色だまは終点にたどり着く。鮮やかで動きのある絵とリズムのある言葉を楽しめる。
 元永定正 作・絵 福音館書店

『ごぶごぶ ごぼごぼ』
 「ぶーん」「ぶく」「ぶくぶくぶくん」いろいろな音。音の響きやリズムの楽しさをあざやかな色のついたまるの動きで表した絵本。
 駒形克己 作 福音館書店

『おつきさまこんばんは』
 暗くなった空にまん丸いお月さまが顔を出したが、雲が出てきてお月さまを隠した。再び顔を出すお月さま。正面をむいたお月さまの表情とストーリーで赤ちゃんの心をつかむ絵本。
 林明子 作 福音館書店

『くっついた』
 ページをめくると…くっついた! その繰り返しで楽しい赤ちゃん絵本。最後は赤ちゃんのほっぺを挟んでお父さん、お母さんとくっついた! 赤ちゃんのまわりにいる大人までニコリ笑顔になれる絵本。
 三浦太郎 作・絵 こぐま社

『くだもの』
 みずみずしく描かれたくだものが一口サイズになって「さあ、どうぞ」。思わず手をのびてしまうほど、おいしそう。写実的な絵とやさしい語りかけが魅力。
 平山和子 作 福音館書店

『にんじん』
 「にんじんのすきなこだあれ」の問いかけに次々と登場するのは、馬やきりん、いろいろな動物たち。「ああ、おいしい」と、みんなにんじんが大好きと、うれしそうに食べている。独特の質感の切り絵が楽しい絵本。
 せなけいこ 作・絵 福音館書店

「家読(うちどく)」のススメ
 「家庭ふれあい読書」を意味する「家読(うちどく)」は、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動です。「子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる」そんな素敵なひとときを過ごしてみませんか。各ご家庭に合った方法で、本に親しみましょう。

- 対象年齢は目安ですが、発達段階に即して並べてあります。シリーズや続編のある作品には、出版社名に★印がついています。
- ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
- このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。非営利目的に限り、複製・配付ができます。

発行／千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
 〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL:043-223-4072 FAX:043-222-3565
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>



